

## 令和6年度第1回花巻市文化会館運営審議会会議録

1 開催日時 令和6年8月26日(月)午後2時00分～午後3時10分

2 開催場所 花巻市文化会館 第1、2会議室

3 出席者

委員 出席 7名

多田貢委員(会長)、佐々木和久委員(副会長)、菅原美智子委員、菊池房江委員、  
祓川りみ子委員、及川有子委員、猿舘祐子委員

欠席 3名

高橋トシ委員、高橋信也委員、佐藤洋子委員、

事務局(花巻市文化会館) 6名

菅野生涯学習部長、梅原生涯学習課長、伊藤館長、滝浦上席主査、中島上席主査、  
高橋主任

4 議題(審議事項)

報告事項 (1)令和5年度花巻市文化会館の運営状況について

(2)令和6年度花巻市文化会館の運営状況(途中経過)について

5 議事録

### 1. 開会

[梅原生涯学習課長]

それでは皆様ご案内の時間になりましたので始めてまいりたいと思います。改めまして皆様本日はお忙しい中、そして暑い中お集まりいただきありがとうございます。

開会に先立ちまして、本会議の成立についてご報告いたします。本日は委員の過半数の皆さんにご出席いただいておりますので、花巻市文化会館管理規則第16条第2項に基づき、本会議が成立することをご報告いたします。

続きまして資料の確認をいたします。あらかじめ郵送でお送りしている資料に修正がありましたので、本日は机にあります資料の方をご覧いただければと思います。まずは表紙です。令和6年度第1回花巻市文化会館運営審議会、ページ番号が1となっております。ここから14ページ

までが資料となっております。この他に参考資料として、今年度のこれまでの事業の記録写真、チャレンジライブのチラシ、そしてスイングキッズ花巻交流公演のチラシ、花巻市文化会館のイベントガイドで『2024年秋号ぎんどろ』です。以上になります。

お手元にお揃いでしょうか。それでは1の開会から進めさせていただきます。

ただいまから令和6年度第1回花巻市文化会館運営審議会を開催いたします。

では、開会にあたりまして、初めに当審議会の多田会長よりご挨拶をお願いいたします。

## 2. 挨拶

[多田会長]

はいそれでは一言ご挨拶を申し上げます。

皆さん本当にお忙しい中、とはお盆明けというかですね、いろんな休みともあってその明けということで大変お忙しい中、そしてずっと毎日暑い中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

今日は去年の令和5年ということで、コロナ明けという言い方がいいのかどうかよくわからないんですけども、連休明けにコロナが5類となった中で、通常やっとな通常の文化会館の運営っていうのが戻ったりと、元に戻ったというか、通常の運営ができるようになったという年の1年間の運営状況を皆さんで確認いただくとともに後はもう今年、もう9月半分近くもう年度としては過ぎてると思いますが、かなりやっぱり文化会館としての事業なり、いろんなものがもう今年度も多く行われているという状況を皆さんで確認いただきながら、いろんなご意見を頂戴したいと思いますので、短い時間になると思いますけれども、よろしく願いいたします。

[梅原生涯学習課長]

ありがとうございました。続きまして、菅野生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

[菅野生涯学習部長]

生涯学習部長菅野と申します。どうぞよろしく願いします。

本日はお忙しい中文化会館運営審議会とお集まりいただきまして大変ありがとうございます。

また皆様には日頃より花巻市の芸術文化施策に対してご理解とご了解をいただきまして、改めてお礼申し上げます。

ちょっと文化会館の関係でお話させていただきますけれども、まだまだ先ほどお話ありましたけれども、暑い夏と、また不安定な天気が続きそうですけれども、文化会館ではやはり、事業を行う際に、来館者の熱中症などのときの緊急対応であったり、また台風等が来た場合、災害の恐れ

があるということで、避難所の開設とかということで、この季節の中で職員も気を回しながら働いているということのようです。

こちらからいらっしゃった方はわかるかと思いますが、様々改修工事を進めておりまして昨年度、音響設備の更新を行いました。今年屋上の一部の防水工事を実施しております。暑い中での作業ということで、天候の影響もある工事なので、現場の取り扱いなど注意深く進めていただいております。また、現在受電設備、館内照明など基幹的な設備の更新改修について、実施設計の作業を行っているところです。

今後は長年の課題でありますトイレについても改修の方に手をつけたいと思っておりますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

事業の方はこれからコンサート公演の5本が年内に予定されております他、市民芸術祭などステージ発表の機会が目白押しとなっております。

これまでの発表団体に加えまして、若い世代が気軽に大ホールの舞台を利用できる機会をとということで、チャレンジライブというものを企画しております。音楽やダンス、パフォーマンスで表現したいと思う若い人たちにおきましたらば、この花巻の文化会館からぜひ羽ばたいていただきたいなと思っておりますので、ぜひ心当たりのある方がいらっしゃれば、お声かけていただければと思います。

本日は、運営状況の報告を踏まえ、事業がさらに魅力的になるよう皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

[梅原生涯学習課長]

ありがとうございました。続きましては次第にはございませんけれども、本年4月より配属になった職員が2名おりますので、ご紹介したいと思います。

—職員自己紹介—

### 3. 議題

[梅原生涯学習課長]

それでは議題に入ります前に、次の3の会議公開について確認したいと思います。花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開することとしてよろしいか伺います。

会議終了後に本会議の議事録および事業についてホームページで公開されることとなりますが、公開してよろしいでしょうか。

—（異議なしの声）—

[梅原生涯学習課長]

ありがとうございました。それでは異議なしということで公開することにいたします。

では、次の議題に入りますので、多田会長、前の議長席にご移動いただき、議事を進めていただくようお願いいたします。

[多田会長]

それでは議長ということで、暫時進めさせていただきますので、皆さんご協力よろしくお願いたします。

では次第にあります通り議題の(1)令和5年度花巻市文化会館の運営状況についてお願いいたします。

[伊藤館長]

(1) 令和5年度花巻市文化会館の運営状況について説明

[多田会長]

はい今館長さんの方から5年度、いわゆる去年1年間、今年の3月までの状況を説明していただきました。

今の説明の後、報告に関しまして皆さんご質問等ございますでしょうか？手を挙げて説明をお願いいたします。

[菅原委員]

9ページの減免のところですが、小中学生のところが使用料の3割を減ずるってあるんですね。

その他の高校生とかは9割の減免なんですけど、このところは何かそういう決まりがあるのでしょうか。小中学生の3割で、高校で5割の使用料の減免規定となっている理由とは。

[伊藤館長]

規定でこのように定めていることではありますが、その規定自体は平成26年に改正されたところになります。小中学校よりも高校大学の方が減免額が大きい理由についてのご質問ですかね。

[菅原委員]

はい。

[伊藤館長]

そうですね、小中学校というのは義務的教育機関というところで、そもそも学校単位で予算措置をされている主体ですので、市の連携がしやすい団体ですけれども、高校大学では私学私立だっ

たり県であったりってところが花巻市の予算含めて管理外ということになりますので、そちらの方をちょっと手厚くしている、というふうに私は理解しています。

[多田会長]

ということですが説明ですがよろしいでしょうか。

[菅原委員]

小・中学生も5割にしてあげてもいいんじゃないかなと思うんですけども。

[伊藤館長]

それは一つ言ってしまうと、小中学校の行事は学校の中で行われるように学校施設そのものがあるので、そのように整備されている中で、外部に出て学校から飛び出して活動するっていう機会も頻度は高くない。

[菅原委員]

そうですね。そう言われれば

[梅原生涯学習課長]

補足します。

小・中学校は総使用料の3割以内です。基本使用料と、いろいろ備品など使ったものの金額も含めた部分の3割、高校や大学は基本使用料のみ5割になりますので、金額で言うと、例えば大ホールを使った場合には、その総使用料の3割のほうが減免額が大きくなる場面も発生します。

[菅原委員]

わかりました。

[佐々木委員]

余談なんですけど、なはんプラザでも減免規定あるんですが、一応商業振興を目的とした施設になっているんですが花巻市内も小中学校に関しては、全額免除されます。

県立高校とかになると5割までというふうになってます。今度矢沢中学校吹奏楽部さんが定期演奏会を開催しますが、無料です。だから規定を分かっている学校さんだと無料の施設を利用するんですが。なかなか結局、市の規定は整合性があるかっていうと既存とか新設とかあって、多分とれないんだというのもあるんだらうなっているのはありますので、いわゆる施設の情報を広く知ってもらえば、上手く使い分けることができるのかもしれない。

何とも言えないところですけども、条例変えるっていうのはなかなか大変だっていうのはよく聞

く話で、本当に余談なんですけど、そんな感じを受けてます。

[伊藤館長]

昭和50年の考え方に基づいている規定となっているものとそうでないものがありますね。

[菅原委員]

昭和平成令和となっておりますからね。

[多田会長]

ホールがあり、文化会館のホールとか、あとは中ホールだったり、会議室とかっていうの50年近く前の作った設計当初の世の中の使われ方や使用目的だったり、あと実際の今の使われ方ですよ。

当初の想定と、やっぱり今とでは、21世紀にもなって20年も過ぎると人が集まって何かするっていう場所っていうの、目的だったり使用方法っていうのが、かなり変わってきてると思うんです。

ただ、それぞれ役所の中はきっとそれぞれの部があって、それぞれの目的なり予算のもとで動いてるところなんでしょうから、大変だと思うんですけどもただ条例っていうのはあくまでも条例なんです。全然変えていいはずですよ。変えて駄目っていうのはまだ全く違うことなんですよね。いろんな形の考え方を見てその現状に即したものの、使い方ができるような方法になってもらえばなと思いますけれども。

[菅原委員]

今後変える方向っていうのはあるのでしょうか。

[伊藤館長]

条例なので、ルールなので変えることは可能です。考えていただくメンバーのなかに皆さんがいて意見を出していただくことが大事だと思います。

[多田会長]

条例を運用する側と、こういう条例、こういう運用が欲しいですよっていう立場とは全く違うので市職員は条例に基づいて運用しなきゃいけないという立場にいらっしゃる中で、逆に私の方が、いや、こういう条例じゃなくてもっと使いやすいようなあれをした方がいいんじゃないですかという話を、声を出すのは、きっと一般市民なり我々なりだと思います。ただ議会を通らないと条例は成立しないので、その段取りとかルールとかいろいろあると思うんですけどもそういうことだと思います。

[菅野部長]

会長さんがおっしゃった通り、文化会館ができた頃は、新しい施設だしある程度負担してもらおうという考えがあったのかと思いますし、なはんプラザができた頃使ってもらってなんぼだっというような考えもあったのではないかと思います。

地域の施設についても、合併前の考え方を踏襲して整理できてないと聞きますし、なかなかどの額が適切かというのを定められないで続いているという面もあるというのは否定できません。会場を利用して、やっぱり高すぎるんじゃないかとか、もっと利用料をとっていいんじゃないかというようなご意見があつてこそ、変わっていくというところもあると思いますので、もし不都合があるということであれば、他にも体育施設とか生涯学習部で管理しているところもありますので、そこでもいろいろ声を上げていただければと思います。

また、実際には運用の中で、こちらで減免が適当だとした場合は適用する場合があります。やはり、なかなか難しく、手をつけられないでいるというところもあります。

[多田会長]

ということですので、はい、皆さん本当に疑問点とかこれなんだとか、やっぱこっちの方が使いやすいんじゃないかとかっていう風にご意見を。いわゆるこの会館としての目的はあるわけですからその目的に沿った使い方っていうのをできる方法論を皆さんからもご提案いただくということだと思います。よろしくお願いします。

あと、先ほどいわゆる今年度の令和5年度の利用件数とか言っていましたけど、どうしても大ホールとかを使うような催し物をする場合に、いきなり連休明けから使えますよって言っても、企画とか運営する方がやっぱり1年前からとか、いわゆるコロナ禍のときから企画とか、準備していかないと、いつできるかはわからないのを企画するはずはないのでやっぱりそういった面では、コロナ明けましたって言っても、利用者数が減っているのはしょうがないし、そんなに増えない一気に増えないというのは、それが当たり前の話なのかなと思いますけれども。だから私一つ事務局にお聞きしたいのは、いわゆるホールの使用方法が5類になった瞬間に変わったじゃないですか。いわゆる規制がなくなったという部分で、その規制前の使い方いわゆる規制がなくなって、使いやすくなったのかどうかっていうのは、逆に使っている皆さんであつたり我々じゃないと、きっとわからないのかなと思うんです。

特にも大ホール業務をやってる委託先というのが、もう業務開始してすぐにコロナの規制に入った人たちなんで、コロナ前の状況をよくわかってないんじゃないかな。

ただ、使う方がコロナだから規制をかけてこれをやっちゃ駄目とか、あとはその終わってからこうしなきゃいけないとかっていう縛りがあつて、いろんな制約のなかでここ3年ぐらいやったと思うんですけども、それが去年からなくなったっていうところで急に前に戻ることがいいことか

どうかってのはちょっとわかんないんですけども、そういう部分で、使いやすくなったのかどうかっていうのはちょっと逆にお聞きしたいところなんですけれども。

[伊藤館長]

コロナによる様々な規制が令和5年になってなくなって本当に我々が使いやすくなったと感じているかということですか？

[多田会長]

そう、規制がなくなって使い方がわかりやすくなったあとは利用者さんからのその声というのがちょっと違ってきてるのかどうか。

[伊藤館長]

我々は非常に案内をしやすくなりました。前後の消毒の時間を取らなくて済むようになったりとか、換気の休憩を入れてくださいとか、必ず休憩にホールの扉を開けるとか、そういうことをお客様に説明しなくてもよくなったっていう意味では、我々はやりやすくなったっていうことがありますし、あと利用者さんに30分おきに換気してくださいねっていうようなアナウンスをする必要がなくなったので、利用者さんはおそらく集中して利用されてるんじゃないかなと、実際の声はないですが、そういうふうには受け止めています。

[多田会長]

皆さんから実際にお使いになって何がっていうのがありますか。問題なければいいです。

[猿舘委員]

どうしても行政だし、数字で判断するっていうか、なんでしょうけれども、今もずっと聞いててコロナっていうのはやっぱりちょっと変な話だけど人生観まで変わるよう全部を巻き込んで大きいことだったわけですね。

それをコロナがなくなったからといって、コロナの前に全部戻るっていうことは、私自身としてはあり得ないなと思ってるんです。人の考え方も、それからそのグループの中の人たちも、いろんなことを経験して変化したときに、前の数字だけを見て、少ないとか多くなったっていうところに基準を載せるのではなくて、やっぱりこの様式が先ほどがずっと言ってますけど、様式があったところに基準を載せて、文化会館としてはどういうふうなことをこれからやっていくのかっていうふうなことを何か少しずつでも考えていかないといつまでもその数字を追った形では違うし、少ないとか多くなったっていうことだけの基準でやっていってはちょっと先がどうかというふうな感じは私はしています。部長さんは先ほど挨拶言ったように、これから防災ということも大きな基準になってきたときに、文化会館として皆さんのように、演技する方たちのための場所でもあるんだけど、市民のためとして、どうやったら防災としてその文化会館が貢献でき

るかっていうか、ある程度何ができるのかっていうことも、これからこういうふうには台風があつたりいろんなことがあるのであれば、その部分をちょっと考えながら、運営をやっていないかと駄目なんじゃないかなという意見ですけど思います。

[多田会長]

全くその通りだと思います。

その辺をそういう意見を考慮しながら生かしながら、これからの文化会館の運営に生かしていただければと思いますので、あとこの先何十年もこの会館あるそうですので。

[菅野部長]

文化会館で文化の係が防災に取り組むのはなかなか難しいのですが、市としては、体育館などを避難所に想定をしたときに、それに向けて冷房入れた方がいいとか、トイレを改修した方がいいというところは考えてはいるのですけれども、具体化するのには予算の問題もあって、体育館に冷房入れて冷たくするには、壁などを直さなければならない場合もありますので、すぐやることは難しいのですけれども、そういう考えで防災危機管理課と担当課で協議していく必要があると思っています。

[多田会長]

平成5年の事業報告に関して何かございますでしょうか？なければ今度は令和6年度の運営状況の報告をお願いいたします。

[伊藤館長]

(2) 令和6年度花巻市文化会館の運営状況（途中経過）について説明

[菊池委員]

それではすいません、(3)のインターンシップの受け入れっていう部分で、13ページのここに初めて、登場したのではないかと思うんですが、コロナ渦が開けてバックヤードツアーやら、アウトリーチもいい感じで実施されてきてますし、それこそエントランスピアノもそうですし、ぎんどろ日和の例えば地域とコラボして、防災ワークショップ開催とかこういうのもいいと思うんです。そして、この(3)のインターンシップの受け入れっていうのが今回初めて出てきたんですが、ちょっとこれに花巻中学校2年生2人を受け入れたけたってことなんですけど、これの周知の仕方っていうか、例えばインターンシップの受け入れしますっていうお知らせを例えば花巻全域の中学校に出されたのか、どんな形で花巻中学校の2年生が参加してくださったのか、ちょっとその経過を知りたいなと思ってました。

[伊藤館長]

我々の方から受け入れますよというふうに呼びかけたわけではないんです。突然受け入れてくださいませんかという FAX が来まして、二つ返事でいいですよと言いましたので今後は、受け入れますと周知しようかなって思いました。

[菊池委員]

そうですね、というのはやっぱりこのインターンシップの受け入れっていうのは、これからの特にも中学校 2 年生っていうのは学年的にも一番いい時期だと思うんです。いろんな形でこれから進路を決めたりいろんな体験をしながら自分たちの進路も決めていくときに、例えばこういうところで、このインターンシップにここで参加したことで例えば音響とか、それから舞台とかいろんな自分たちが体験したことで、もしかして将来そういうところに進んでみたいとかあったときに、高校大学とか、専門学校とか選んでいくっていう進路もここで見えたり、またこういう会館の中でいろんな体験をしたことが、例えばそういう体験をみんなと共有したときに、やっぱりこういうところに行ってみみたいとか、やっぱり広く周知するいい機会だと思いますし、私もちょっとびっくりしたのは自主的に参加させてほしいってきただけっていうのがすごいなと思ったんですね。

なぜ私もさっきからいろんなのを見て資料を見て、花巻中学校の中学 2 年生が 2 名っていうのがあって、例えばどういう形でこれを周知してこの花巻中学校の 2 年生の 2 人がここに応募されたのかなっていうのが知りたかったんですけど、やっぱり今コロナが明けて意欲的に、何かこのアウトリーチもなかなかよそでは受け入れ希望がなかったりしているところで、花巻ではもう 2 例出てますし、バックヤードツアーも私も参加したことあるんですけど、すごいなって思ってやっぱり自分たちが、会館の中で普通に観客席に座ってじっと聞いているのと、自分たちの目で施設のいろんな機械を操作しているところとか、その段取りとかいろんなものを見せていただくことで、ものすごく興味もまた違う形で関心ももっともっと身近な感じで考えられたり、様々な取り組みが、私もすごいなと思ってることが毎年のようにどんどんいろんな企画を意欲的に取り入れてるっていうところは、すごいなって思ってます。

やっぱりこういうふうに関心を持っていろんな形でこれから先猿館さんおっしゃってましたけど、コロナ前とコロナ後とはやっぱり意識的に違ってくると思うので、新しいものをどんどん導入しながら、もちろん前のものも大事にしながらやって変わってまた新しいもので、またちょっとまた違う角度で引き出せるものもあると思うので、そういうものにどんどんチャレンジしていくのは大事なことだと思うので、今後またこういうさっき館長さんもおっしゃってましたけど、また周知してみようっていうので、いろんな学校から受け入れていただけたらいいんじゃないかと思います。

[佐々木委員]

チャレンジライブですけども、いつから告知しているんですか。

[伊藤館長]

9月1日号の広報に入ります。SNS上では早めに動いていて文化会館のフェイスブック、花巻市と文化会館のホームページには掲載しておりました。紙ベースの周知方法は広報になります。

[菅原委員]

多少の反応みたいなのはあるんですか SNS で。

[伊藤館長]

高校生の利用者さんには考えたって仲間と相談するということでした。

金星少年少女オーケストラさんから応募あったところです。

[多田会長]

どうしても花巻市だからその広報というものを紙媒体で使わなきゃいけないのかなと思うんですけども、やっぱりどうなのがいいのか。

これ私の極論ですが、アンテナ低い人に合わせなくていいんじゃないかなという、アンテナ低い人に合わせるとアンテナ高い人が引っかかってこないという話なんですけど、どうしてもリアルタイムのスピード感がなくなってくるんで、終いには見てなかった聞いてなかったって言われて終わりなんで、その辺はやっぱりスタンスを発信側のスタンスっていうのをちゃんと持った方がいい。全市民にまんべんなく平等になるというのはもう無理だと思います。

だからイベントを企画するこうした自主事業とかそういうのを企画するにしても、ましてや10代とか20代という年齢下がってるものに関しては、誰も1世帯に1部広報が回っているけど、10代20代はそれを目を通す機会はないんで、それぞれのその届け先にあったような方法がいいのかなと。一生懸命今の館長さんはそういったことで発信なさってるみたいですけど。

[佐々木委員]

ちょうどうちの会社、ちょうど今度の週末、それほど花巻北高さん文化祭ですから軽音楽部もそうですし、いろんな文化部発表のお手伝いしてるので、こういうのもあるんだよっていうのは宣伝したらいいかなとちょっと思ったもんですから、もう周知しているのかなっていうのが確認でした。

これちょっと余談かもしれないですけど、福井敬さんの歌のコンサートが12月1日あるんですが、ちょうど8月11日Zホールであったんですよね、毎年うちでもチケットを扱ってるんですが、周知はどのようにしてますか。

[伊藤館長]

チラシは案の段階で構成とか確認を取っていたところなんですけど、8月11日のZホールでのコンサートがあったので、その前までは周知を控えていたところです。Zホールでのコンサート

が終わったので、最近周知活動をし始めてるところです。

[多田会長]

あんまり暑くて客足が遠のくことは考えられるんじゃないかな。

本当にあまりにも7月8月は暑すぎて、その外出して何がするのもかなりつらい状況になってるってというのは、今年もいくらコロナ明けたからといっても、去年よりはちょっとつらくなってるのかなという部分はあると思います。

たまたま文化会館は出ないと思うんですけど、私もいつ熱中症警戒アラートが出るかどうかはわからないという状況でのイベントを今月初めにやりましたので、そうすると、熱中症警戒アラートって出た瞬間に、もう外でやってるイベントはスポーツだろうが音楽だろうが一切とにかく中止しなきゃ、学校行事だろうが何だろうかというものすごい縛りがあって、命に代えられないという。

地域イベントという状況で熱中症警戒アラートがいつ出るかと思って、出たらすぐやめるというような状況だったので、7月8月のやっぱりそういうこれから夏のイベントはそうなのかなと台風もいっぱい来そうだし、文化会館はみんな中だからね、

止めるようなことはないと思うんですけど、ただ併設で外でぎんどう公園でやってるイベントとかっていうのは気をつけなきゃいけないようなこともあると思う。難しいですね、人を集めるって。

福井敬さんだけの話ではないですけども、去年もそうですけどいわゆる宮沢賢治記念館の周年イベントで、ここを使って皆さん宮沢賢治のチェロを宮田大が弾くというイベントもあって。

私らは分かるんですけど、花巻市主催のイベントだっていうと、文化会館主催なのか、宮沢賢治記念館主催なのか、賢治まちづくり課主催なのか、そういうのは一般市民では分からないと思います。

今度の土日の賢治フェスっていうか博物館にしても、その辺なんだろうな。

どこであってでもいい、特に文化会館であるものであれば、もうそれがもっと統一性のあるような、無料なら無料でもいいけどもこういう入場の仕方ですよとか。そういうことでないと混乱しちゃうのかなと。花巻市がやっていてその予算は行政の予算っていうか、やってるものを、出口が違うからと言ってやり方が違うっていうのもやっぱりちょっと違うのかなというのをそれぞれ各担当課さんでは一生懸命、それなりに企画してるんでしょうけども、やっぱその辺をちょっと良くは繋げて市民から見たときに、花巻市が単純にやっているんだ、みたいなイメージを持ってもらった方が、せっかくなら予算の使いがいいというか、やりがいがあるのかなと思います。今度の福井敬だってそうだと思います。

今度の宮田大だって、イーハトーブ館で抽選で先着 100 名分。イーハトーブ館だからあれも何かこっそりやってるような感じですけど、ひっそりとこっそりと大変なことなんだけどね。でもいいかもしれない。さっき言った通り、アンテナの低い人は引っかけられない大丈夫かもしれない。

そういう引っ掛け方あるのかなとは思うんですけども、せっかくやってるんだったら、やっってるっていうのを最低限告知の仕方があるのかなと思います。

[多田会長]

途中経過についてあとは何かご質問ご意見ありますでしょうか？

報告の通りということで終わります。

(3) のその他はございますか。

[菊池委員]

今年の 1 月 19 日にここの文化会館で開催していただいた芸術体験フェスティバルイーハトーブでここにやっぱりキッチンカーとかいっぱい来て、あといろんなところから応援もらって、大ホールの方は 1300 人それから次の日も 1200 人とかすごい数字を出して今まで全県下でやってきた最高の数字で、もう本当に褒められまして拍手喝采で。あの会議もそれでやっぱり花巻って土壤がキッチンカーだけじゃなくて地域の中のものすごく幅広い応援もらって、本当にいろいろな企業さんだったんですよ。本当に一般の市民ももちろんですけど、本当にあれだけの人が親子連れも動いた。

そういうものがこの花巻ってすごいとこだなって言っていて、何か嬉しくて誇らしくなんか皆さんにそのことも含めてお伝えしなきゃないなと思って来たんですが、やっぱりこういう大事な市民性っていうのが温かくて、それでいろんな商工業みんないろんな人たちも文化芸術を大事にしながら育てる土壤っていうのを大事にしたり、そういうこともありがたい言葉を伝えたり、あとはまた今後ともよろしく願いますを伝えたり、そして地域とコラボしてる夢明かりの方たちも一緒になっていらっしゃったり、キッチンカーも出店してきた。ああいう賑やかなところによそではなかったんで、本当に皆さん参加した方たち県の方たちも実際の方たちもはいいところに来たなって、なんかすごくほのぼのと暖かくて、雨が降ってもこんな雨の中でも 1200 人っていう数字を出しました。

こうした体験することの喜びっていうか、芸術や文化に対しての造詣が深いんだっていうことを、本当に数字でもう出てきたので、何か花巻のこういう風土もあると思うんですね。私もいろんなところに行って、開催地で観てたんですけど、この前は水沢で見たりいろいろあったんですけど、やっぱり花巻でこれだけたくさんの方が関心を持ってすごく笑顔がいっぱいなので、声が笑い声が響いたり、親子連れてって光景はなかなかなかったのですがすごい自分たちの住んでるところがすごく素晴らしいところだって誇りに思えたすごくとてもいい何か体験をさせていただきま

した。

皆さんのお力添えの賜物だと思います。本当にありがとうございました。

[多田会長]

ありがとうございました。

菊池委員さんは岩手県の芸術協会の方の理事さんで、県の芸術文化協会の方からの花巻に対するコメントということで、大変ありがたく頂戴しておりますありがとうございます。

[多田会長]

では一応予定された議事を終了いたしましたので、一応お送りさせていただきます本当に皆さんご協力ありがとうございました。

[梅原生涯学習課長]

多田会長ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和6年度第1回花巻市文化会館運営審議会を終了いたします。

委員の皆様、本日はありがとうございました。